

「情報」個別入試への道

石光俊介

広島市立大学

どうしてこうなった

2021年2月、次年度の入試委員長就任の譲り合いが続く。根負けして引き受けた直後、命は下された。2025年入試に向けた検討をすぐにでも開始すべきというもの。さらには、今からではもう遅いかもしれないから急げとも矢継ぎ早に命ぜられる。引き受けたことに後悔しつつ、周囲にタイムマシンを探すが、見つからず、諦めて業務に向かう寒い雨の夜であった。

本学は2024年度で30周年を迎える。つまり、約30年前から情報科学部を設置してきた老舗と自称している。今の周辺状況は、情報科学部・情報工学科の設置ラッシュである。その一方で、老舗である我々は時間をかけてスタッフをそろえ、今日に備えてきたと差別化を訴えている。さて、高等学校の学習指導要領改訂は以前もあった。2013年である。これは今の高校3年生までが適用されている指導要領で、「社会と情報」、「情報の科学」のいずれかを選択必修するものである。よって、老舗という自負のある本学では2017年入試から「情報」の科目を取り入れたいという気持ちはあった。この時期から「情報」入試への問題意識について根付いていたのである。

というわけであるから、本学では2025年入試から「情報」の導入は当たり前というのである。世間の狭い私にとっては、これは全国的共通認識と認識せざるを得なかった。はてさて「25年入試で変わることは何か」から調べなければならない。このときは文部科学省のWebページに教員研修用教材¹⁾が公開されており、そこから内容を推察したものである。これを新たに教えていかれる高校教諭の皆さんは大変だなあと思った程度であった。いやいや、他人事ではない。

「情報」入試を導入すると受験生は1/10になる

さて、まだ教科書も入手できない、ということで、入試産業のお力を借りることとした。しかし、教科書を入手できていないのは進学塾も同様であった。そこでは情報の入試導入に対して否定的な意見の連打を浴びることになる。進学塾が言うには、「高校では『情報』の専任教員がほとんどおらず十分な教授ができない。よって、『情報』を出題する大学が少ない限りにおいては進学塾での授業実施に積極的な理由が見い出せない」ということだ。さらには問題集、参考書も当然なく、対策が困難であるという。そして最後の殺し文句が

「このまま検討を進めて情報を入試に導入することになれば受験生は1/10まで減るでしょうね」

である。この進学塾の説明会の後、参加の面々に「なるほど……じゃあ、『情報』の導入はなしということで……」と述べかけた私に「勝手な言い分で、受験産業の都合のいいように誘導しようとしているにすぎない。だから、無視してよし」という自信に満ちた言葉が投げかけられる。さすが権謀術数の限りを尽くしてきた方々は読みが深いのである。つまり、「情報」の入試導入を進めると、まだ準備ができていない受験産業も大変になるから、1/10説は封じ込めの一環だという。とはいえ、世間ずれしていない私はこの塾からの情報の方、つまり1/10説を信じた。人は困窮すると安易な道を選ぶ。「共通テストで情報が準備されるんだからそこから配点すればええやん」

とも思ったものである。

炎の会議

それで日々が過ぎ去るのを待ってもよかったが、何もしていないと思われるのは怖いので、選択肢を整理してみる。なお、その選択肢の前提として、現在、本学では個別入試として数学のみを課している。なぜ数学のみに至ったかについては紙幅の関係で割愛させていただく。

選択1 個別入試で「数学」を継続

数学こそ共通テストで見られるなあ。

選択2 「数学」をやめ、「情報I」

進学塾からは「共通テストで情報Iを課して個別でも同じ科目なんて、それはあり得ないでしょ！」と忠告されたものだが、そこはこらえて記述式で「情報I」を出題。

選択3 「数学」をやめ、「情報II」^{☆1}

とはいえ、初年度からの導入は怖い。まったくこの「情報II」の科目内容については何も分かっていない。数年様子を見て、世の中に浸透してからの導入が安全。

選択4 「数学」をやめ、「記述式面接」

面接を全学生に行うかわりに、最近の学生さんに欠如しがちな文章表現力を評価。こうすることで、文系にも枠が広がる。ただし、こんな感じでとりあえず進めてしまっただけでは、あとで「情報」の個別入試を加えるのは難しいかもしれない。

なんとも難しい。ということで、研究科長、各専攻長、教務委員長の先生方を招集し、炎の会議を行った。そして以下のような舌戦が繰り広げられた。

「高校では指導体制が整っておらず、他専門の教諭が教授している現状がある。『記述式面接』が良さそうな気もするが問題も多くあるように思われる」

「数学は残したままで現状に情報を加えるだけで

いいのではないか。記述式面接では1人の採点者が全員は見られないので、分業による偏りが生じる」

「No！ いままで通り、数学で行くべき！」

「いやいや、入学してからの教育の方を考えるべきである。現状の数学のみの個別入試でも数学ができない学生もいる。また、『情報』への切り替えに高校生がついてこれられないかもしれない。共通テストリサーチ^{☆2}などで大学を選ぶ学生が多い。進学塾が言うように受験生が1/10になるということもあり得るので、対策が必要である」

「その対策とはなにか？」

「それは丁寧な広報である。また、浪人生対策も必要だ。さらに、試験作成において、情報の専門と情報作問の専門とのギャップはある。その困難性に直面する中、教科書を丁寧に調べる必要があるが、その教科書がまだない」

「アドミッションポリシーとの関連はどうなっているのか。『意欲と関心』を問う問題として記述式面接に1票。時事問題、総合問題のようなものがよいだろう」

「そうそう。『情報』の個別入試導入は危ないからやめよう。しばらく様子を見よう。近隣の大学では後期日程はなく、面接をしている。後期日程の個別入試をなくしてはどうだろう。大学入学共通テスト点数+面接で。前期はそのまま、後期は特色を出すという手もあるだろうけど。受験者数が激減するのはさけない」

「あとは各高校で情報IIをどの程度導入するのか見る必要もある。しばらく様子を見て、情報IIをどうするかを考えようではないか。選択肢4の記述式面接がいいかなあ。それで行う場合は記述式面接についても数学的な内容も出してはどうだろうか？」

「そうだね。情報IIを入れるのは現段階では得策ではない。総合型と推薦の割合を増やし、前期・後期での共通テスト科目に情報Iを必修で入れる。前期の記述式では論理性を問う。総合問題では数学や

^{☆1} 「情報I」が必修科目であるのに対して、「情報II」は「情報I」を履修させた選択科目である

^{☆2} 河合塾共通テストリサーチ、<https://www.keinet.ne.jp/center/research/> (2023.5.25 参照)



理科や情報の入った問題を問う。そして後期は大学入学共通テストのみ、というのでどうだろう」

「うむ……方法論に終始しているなあ。どういう学生に入学を許可するかということを通化した上で考えるべきだろ。アドミッションポリシーに基づき、入学してどういう教育をするか。カリキュラムも同時進行で変えなければいけない」

「ひーっ、どうすればいいんだ」
ということで、どれかの案に収束するであろうとの期待は脆くも崩れ去ったのである。

高校教諭の方々に意見を聞く

まとまりもなく混沌とした状態で寝かせておけば良い案が熟成されて出てくる場合がある(滅多にないが……)。ということで、熟成中のスパイスとして、高校の先生方のお話を伺ってみることにした。すると、「県にもほとんど情報の常勤がいなくて本当に困っていますよ」とか、「市大の先生が出席前で情報の講義をするってのはどうでしょうか」とか、「まだまだ考えていないです」とか、「無理なんじゃないでしょうか」とか、反対意見しかない。これはさすがに厳しい。「情報」の個別入試導入による受験生激減で途方に暮れる未来を垣間見たものである。やはり後期の個別入試なしで、記述式面接でいくしかないのであろうか。気持ち的にはそこに収束してゆく。

会議で痛罵つうばされる

そのような状況下で全学の入試会議に出席する。議長から25年入試の進捗を尋ねられて現状の存念を語ったのである。

「後期日程は試験の代わりに記述式面接を考えています」と。

するとその安易な提案は全否定され、考え直すことを余儀なくされたのであった。うむ……。と

はいえ、やはり後期日程でもなんらかの筆記は必要である。辞退者が多い後期日程では入学者を読めなくて、定員大幅超過による偏差値低落か、定員不足のどちらかになる可能性大だ。となると、筆記をするならやはり「情報」。確かに入学意志を問うことは情報科学部で情報を学ぶ意志を問うことと同義である。さらには意志を問うだけでなく高校での取り組みも問わねばならない。他人への批判や説教は恨まれるだけと言うが、私の場合、会議での全否定は感謝となった(ほんまかいな)。

政略や戦略は枝葉のことだ。覚悟だぜ

さて、いろいろと考えてきたが、再び炎の会議を開いたところで方策は決まりそうにない。まわりの動きを見て判断するかという考えが支配的になったときに、ここは覚悟しかないと思ひ直す。愛読書の1つである司馬遼太郎『峠』の中で、幕末に東北諸藩が集まって官軍に対してどうしようという会議において、河井継之助という長岡藩家老は以下のように言い放つ。

「意見じゃないんだ、覚悟だよ、これは。官軍に抗して起つ起たぬか。起って箱根で死ぬ。箱根とは限らぬ、節義のために欣然屍を戦野に曝すかどうか、そういう覚悟の問題であり、それがきまってから政略、戦略が出てくる。政略や戦略は枝葉のことだ。覚悟だぜ」²⁾

「情報科学部」老舗という節義のために「情報」の個別入試導入で受験生が激減し屍を曝すかどうかの覚悟を決めてから、方針や方策が出てくる。方針や方策は枝葉なのである。まずは覚悟である。個別入試で「情報」をやろうではないかと。

こうして原点に立ち戻り、「情報」を個別入試で行い、情報を学ぶ意志と高校での学びを見ようということになった。その覚悟から、高校での「情報」に対する取り組みを積極的に評価するという方針も出てきた。これらは総合型選抜において検討した。こちらは別稿に譲りたい。以上の検討をまずは予告という形で

発表することになった。これは当初から予定として決められていたデッドラインの1つであり、2022年の7月末に発表した。発表内容を図-1に示す³⁾。

国語と理科の削除にはかなり抵抗があった。「国語」も「理科」も今の形のまま残して「情報」を新たに加えてはという意見もあった。しかしそれでは受験生の負担が増えるばかりでさらには安易すぎる。また、入試成績を解析してみると国語の成績はほとんど影響していないという解析結果もあった。が、これは枝葉である。「情報」の学びを優先させようという覚悟を示すことにした。この予告の発表によりついに後には引けなくなった。

うやく入手できるようになってきた。それを見計らって、問作の先生方を選抜。この方々も各専攻の猛者である。当然忙しい。しかし、暇な方より忙しいの方が仕事は早いし、品質も高い。こうして忙しい方は指数関数的に忙しくなっていくわけだが、頭を下げ下げ進行。一時は筆記面接という路線も出されたのである。よって、教科書に載っている例題レベルでやさしくという方針とした。そうしているうちに、大学入試センターから「情報」試作問題が発表された。問作猛者からは「もう少しレベルを上げてよかったのではないかと」声が挙がったが、「いや、今でも難しいと言われるかもしれない」と、整理を進めるのであった。さて、ある程度形になり、その妥当性について調査しなければならない。そこで再び進学塾に頼ってみることにした。すると、妥当性の確認に100万円弱かかるという。「情報個

模擬問題作成

4月に発注していた「情報I」の各社教科書がよ

【2022年度（令和4年度）入学者選抜（変更前）】					【2025年度（令和7年度）入学者選抜（変更後）】						
学科	学力検査等の区分・日程	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査等		学科	学力検査等の区分・日程	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査等	
		教科	科目名等	教科等	科目名等			教科	科目名等	教科等	科目名等
情報工学科・知能工学科システム工学科・医用情報科学科	前期	国語	「国語（古文・漢文を含む）」	数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B	前期	数学	「数学Ⅰ、数学A」と「数学Ⅱ、数学B、数学C」	数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C	
		数学	「数学Ⅰ・数学A」と「数学Ⅱ・数学B」、 「簿記・会計」、 「情報関係基礎」から1				理科	「物理」、「化学」、「生物」から1			情報
	理科	「物理」、「化学」、「生物」から1	外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1 〔4教科5科目〕	外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1 〔4教科5科目〕					
	外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1 〔4教科5科目〕									
後期	数学	「数学Ⅰ・数学A」と「数学Ⅱ・数学B」、 「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1	数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B	後期	数学	「数学Ⅰ、数学A」と「数学Ⅱ、数学B、数学C」	情報	情報Ⅰ※		
理科	「物理」、「化学」、「生物」から1	外国語			「英語」 〔3教科4科目〕	外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1 〔3教科4科目〕				

※ 一般選抜後期日程において、個別学力検査で課す新教育課程の「情報Ⅰ」の既卒生等への対応は、2024年3月までに公表する予定としています。

図-1 2025年度（令和7年度）大学入学者選抜（2024年実施）における変更点³⁾



別入試と一緒に開拓してみないですか？」と値切り交渉を試みたが、にべもなく、予算もなく、我泣き濡れて蟹と戯れるのであった。模擬問題の妥当性の検証、どうすべきか。そこで、1, 2年生を集めて、模擬問題を解いてもらうことにした。文章読解力や文章作成能力を見る設問もあり、そこがよいスパイスとなっている。参加学生さんもそこが苦手の様子であったが、全体的にできはよく、狙い通りの結果になっていた。紙幅の都合、模擬問題の紹介ができないのが残念である。

情報メッセージを出す

こうしているうちに、本会から情報交換が申し込まれた。その中で、他大学の取り組みもご教示いただき、中でも琉球大学のメッセージ⁴⁾には感銘を受けた。「広島市立大学もメッセージを出すべきですよ」と本会中山泰一先生を始めとする皆様に勧められ、司馬遼太郎の「21世紀に生きる君たちへ」⁵⁾のような内容にしたいなあと思いながら井上智生先生とともに考えた文章⁶⁾が以下である。

情報科学部では、2025年度(令和7年度)の入学選抜から、一般選抜前期日程および後期日程の大学入学共通テストの利用科目として「情報I」を必須にするとともに、一般選抜後期日程の個別学力検査に「情報」を導入します。

広島市立大学は1994年に情報科学部を設立しました。恒久の平和を見つめ未来を照らすようにと設立した学部です。遠くを照らす灯台が荒波にさらわれぬしっかりした基礎を持つように、開学時から約30年かけてしっかりと皆さんに情報科学を教育する基礎を築いてきました。私たち情報科学部の教員は、皆さんを情報科学で未来を切り拓ける人に育てたいと思っています。

皆さんの高等学校での学びは大きな未来につながります。その学びの成果を入試で表現していただくとともに、なによりも「『情報』が好き」な皆さん

にぜひ門を叩いてほしいと思い、入試に「情報」の科目を設定することになりました。皆さんも考えているように、社会では「情報」人材が求められています。AIも電卓のように道具として活かす時代になります。皆さんの未来を照らす灯台のように、しっかりと基礎を築いてきた広島市立大学情報科学部で、皆さんの好きな情報科学を学びましょう。

なかなか司馬遼太郎テイストにはならないものであるが、気持ち的には21世紀を生きる君たちへ伝えたいメッセージである。

21世紀に生きる高校生へ

「情報」個別入試導入への道のりを述べてきた。このような語り口で、情報処理学会誌の格調が下がってしまわないか心配であるが、解説ということなので、ご容赦いただきたい。「情報」入試導入により屍を野にさらすことになるかもしれないが、地元産業の情報技術者育成の要望は大きく、地域社会のためにも「情報」入試の成功を願っている。なにより主体である21世紀を生きる高校生の皆さんに「情報」を通じて本学から社会に飛び立ってほしい。

参考文献

- 1) 文部科学省, 高等学校情報科「情報I」教員研修用教材(本編), https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416756.htm (2023.2.26 参照)
- 2) 司馬遼太郎: 峠(上中下) 合本版(電子書籍), 新潮文庫, 新潮社(2015)。
- 3) 広島市立大学, 2025年度(令和7年度)大学入学選抜(2024年実施)における変更点について[予告], 2022年7月29日。
- 4) 琉球大学, 令和7年度琉球大学入学選抜における「情報I」の活用について, <https://www.u-ryukyu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/11/message.pdf> (2023/05/09 参照)
- 5) 司馬遼太郎: 二十一世紀に生きる君たちへ, 世界文化社(2001)。
- 6) 広島市立大学, 2025年度(令和7年度)入学選抜における「情報I」の導入についてのメッセージ, <https://www.hiroshima-cu.ac.jp/uploads/2017/05/97bc4f50012ae6d5db9e4cb0aa03ef20-20230306100927013.pdf>, 2023年3月6日。

(2023年5月14日受付)



石光俊介 ishimitu@hiroshima-cu.ac.jp

2021年から入試委員長として25年度入試対策のほか、コロナ禍での急なオンライン入試などで涙を流す。2023年から研究科長・学部長、再びタイムマシンを探す。近著「サウンドデザイン論」(養賢堂)。